

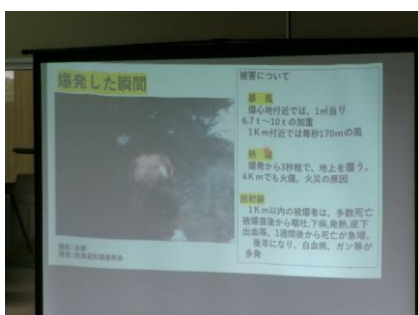
川崎小学校創立150周年記念事業

被爆体験講話 橋本 富太郎さん

7月10日(水)に川崎小学校創立150周年記念事業の一環として、長崎県より橋本富太郎さんを講師にお迎えして、「被爆体験講話」を開催しました。

4~6年生が参加し、平和の大切さや、戦争の悲惨さについて考え、学びました。

被爆体験講話





お礼の言葉



子どもたちの感想

原爆が落ちて、大きな被害にあったということは知っていたけど、数km離れていても、すべてが粉々になって、鉄骨の物が少しだけしか残っていなかったということを知って、原爆の風や光は恐ろしいなと思いました。風圧が10tもあると聞いてびっくりしたが、そんな中でも橋本さんが生き残れたということが、どれだけすごいかを実感しました。

橋本さんの話を聞いて、心に残ったことが2つあります。1つ目は、「平和は大切だ。守りますと唱えても守れない」というところです。講師のおっしゃったとおり、言うことは簡単だが、それをできるかはちがうと思います。2つ目は、「武器は兵力ではない。知力だ。」という言葉です。

原子爆弾が落ちた時の重さが、「200kgのおすもうさん50人分」と分かりやすくとえてくれて、そんな重さの暴風って少し当たただけでも骨が折れるのではないかなと思いました。橋本さんが最後に言っていた「行動するのが大切」という言葉が心に残りました。

橋本さんの話を聞いて、動画で見たり、インターネットで情報を聞いたりするよりも、実際に体験した人の話を聞く方が、恐ろしさが伝わってくると思いました。戦争について初めて知ることができたし、知っていたこともより詳しく知ることができました。橋本さんに「ありがとうございます」の感謝を伝えたいです。

